



令和8年度

指導の重点・主な施策

好きを育み 得意を伸ばす とだの教育

戸田市教育委員会

戸田市教育委員会 facebook



指導の重点・主な施策について

学習指導要領に基づき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を「教科固有の見方・考え方」、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善と教育活動を最大化するカリキュラム・マネジメントを通して育成することが求められている。

戸田市教育委員会では、「戸田市の教育振興に関する大綱」及び「第5次戸田市教育振興計画」（令和8～12年度）を基盤に、国や県の動向や各学校の実態を踏まえ、戸田市の子供たちがこれからの変化の激しい時代において、自らの人生を舵取りし、民主的で持続可能な社会の創り手となれるよう、各施策を実施する。

この「指導の重点・主な施策」は、令和7年度に実施した全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果分析や、学校訪問等を通して明らかになった指導上の課題解決や日々の授業改善に向け、各学校で行う教育活動の指針を編集したものであり、教職員の手の届くところに置かれ、授業づくりの一助となるよう作成した。各学校においては、令和8年度の指導の重点として、本冊子を十分に活用し、自校の実態に即して学校教育の充実を図る。

第5次戸田市教育振興計画

計画期間
令和8年度～令和12年度

(教育理念) **好きを育み 得意を伸ばす とだの教育**



方針1

学校教育において、未知なる教育改革に挑み、「自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手」を育成する学びの実現を目指します

方針2

あらゆる学びにおいて、誰一人取り残されることなく、誰もが互いの多様性を尊重し、いきいきと共に高め合う学びの実現を目指します

方針3

子供も大人も、家庭や地域で学び、活動し、支え合うまちを築くことを目指します

方針4

施策全体を支える様々な基盤の整備・充実を図り、各施策の実効性を高めることを目指します



◆令和8年度 戸田市立小・中学校における標準時数◆

小学校	各教科										特別の教科道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語					
第1学年	306	-	136	-	102	68	68	-	102	-	34	-	-	34	850
第2学年	315	-	175	-	105	70	70	-	105	-	35	-	-	35	910
第3学年	245	70	175	90	-	60	60	-	105	-	35	70	35	35	980
第4学年	245	90	175	105	-	60	60	-	105	-	35	70	35	35	1015
第5学年	175	100	175	105	-	50	50	60	90	70	35	-	70	35	1015
第6学年	175	105	175	105	-	50	50	55	90	70	35	-	70	35	1015

中学校	各教科									特別の教科道徳	総合的な学習の時間	特別活動	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語				
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

▶小学校における外国語・外国語活動における教育課程の特例及び短時間学習等について（教育課程特例校）

戸田市では、教育課程特例（令和2年1月22日文部科学大臣承認）により、第3・4学年の「総合的な学習の時間」を35時間減じ、外国語活動に35時間を加えて実施（合計70時間）する。また、第3～6学年の外国語・外国語活動のうち35時間の実施方法は、15分間の短時間学習を3回行うことにより1単位時間（45分）に換算して実施する。低学年の外国語（英語）活動については、余剰時間や短時間学習も含めて20時間程度実施する。

▶その他の教育課程の特例（教育課程特例校・授業時数特例校・研究開発学校）

- 新曽小、戸田東小については、教育課程特例が承認されている（令和4年4月1日より）
- 戸田東中については、授業時数特例が承認されている（令和4年4月1日より）
- 美谷本小、喜沢小、美女木小、美笹中は文部科学省による研究開発指定により、一単位時間を40分（中学校では45分）として実施する特例が承認されている。（令和7年4月1日より）

アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

戸田市では、アクティブ・ラーニングの視点から、不断の授業改善を図るための基本的な5つの視点を指導用ルーブリックとして示している。自己の授業を見直す視点として、また、学校訪問や授業研究会において授業を見る視点として活用していく。

令和8年度においては、令和7年度における視点別の自己評価で課題の見られた**視点4を重点**とする。

視点1 目標	1.80
視点2 主体	1.85
視点3 対話	1.80
視点4 深い	2.10
視点5 評価	1.90

学校訪問において教師が4件法により自己評価した結果の集計
 1 できた
 2 概ねできた
 3 あまりできなかった
 4 できなかった
 ※数値が高いほど自己評価が低い

令和7年度における自己評価結果集計

視点
1

児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか
- 本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか
- 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）

視点
2

児童生徒が自分の考えを表現することができていたか 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか
- 自分の考えを表現することができるように、（主につまずいている児童生徒への）支援方法を準備し、支援することができたか
- 自分の考えを表現することができるように、教具の工夫、適切な時間や場の設定等の準備ができたか
- 学習活動は、目標の実現につながっていたか

視点
3

児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか 【主に対話的な学びの視点】

- 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できたか
- 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具（具体物、ICT等）を工夫し用いていたか
- 目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化（ホワイトボード、ICT等）できたか

令和8年度の重点

視点
4

児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか【主に深い学びの視点】

- 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 児童生徒に「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化（ホワイトボード、ICT等）できたか。

視点
5

児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する（キャッチ&レスポンスする）ことができたか
- 目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか
- 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか

単元を通して主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ることが重要である。本ルーブリックを本時の振り返りとしてだけでなく、**単元全体を構成する段階でも積極的に活用**してほしい。

その際、目の前にいる児童生徒を見つめ（**児童生徒観**）、学習指導要領の内容を把握した上で教材の効果的な活用を考え（**単元観**）、どのように指導をするのか（**指導観**）という「**観の視点**」から**各教科の本質に迫る授業づくり**を行うことが大切である。

あわせて、児童生徒が授業の目標を達成できるよう教材・学習材・主題といった「**材の視点**」から学習環境を工夫し、**教師の働きかけ**により、**各教科の「見方・考え方」を働かせながら学びを深める**ことが重要である。

本資料はルーブリックのレベル2です。下記のリンクからはレベル1から3までの規準を示していますので、自身に適した指標を活用ください。



チェック
ルーブリック
レベル1～3



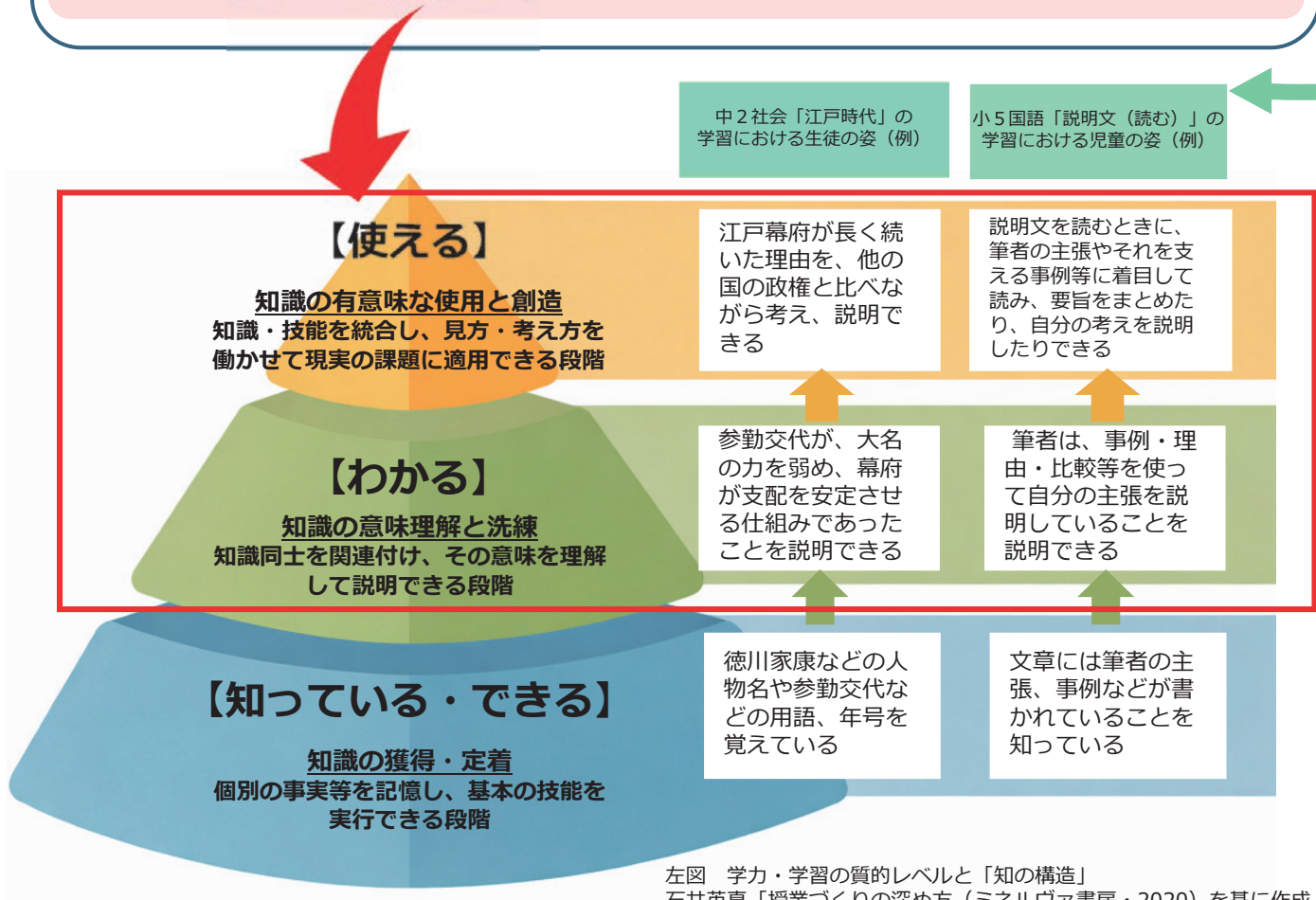
令和7年度全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果や学校訪問、AL指導用ルーブリック等の分析から、本市児童生徒の学習には次のような傾向がみられる。

- 課題 1** 学力調査では無解答率が高い。
 問題の意図や条件を正しく読み取り、必要な情報を見つける力を育てる必要がある。
- 課題 2** ICTの活用頻度は高い。
 今後は、「思考を整理する」「他者と比較する」「考えを更新する」など、学びを深めるための活用をさらに進めていく必要がある。
- 課題 3** 個別の知識や技能（知っている・できる）は概ね身に付いている。
 一方で、それらを関連付けて意味を理解（わかる）したり、状況や文脈に応じて活用（使える）したりすることに課題がある。

授業づくりの本質的な課題

問題を「正しく捉える」（課題1）、思考を「つなぐ」（課題2）**場面の設定**や、学びを「深める・活用する」（課題3）**単元設計**が十分ではないことが考えられる。

課題解決の鍵は「**単元ベースの授業づくり**」を一層充実し、「**使える**」「**わかる**」まで子供たちの資質・能力を高めること



左図 学力・学習の質的レベルと「知の構造」
 石井英真「授業づくりの深め方（ミネルヴァ書房・2020）を基に作成

「使える」「わかる」単元ベースの授業づくりに向けた 「授業改善3つの重点」

① 問題を正しく捉える：考え始める前に、問題の理解を徹底する

無解答の背景には、問題の内容を十分に把握できていない実態がある。思考の出発点となる読解・条件整理を意図的に指導する場面を設ける。

まずは
ここから！



- ・はじめに、「何を求められているのか」「どの条件を使うのか」を確認する。
 - ・問題と資料の関係を言葉で説明させる。
- ※短時間でも、考え始める前に、問題を正しく捉えるための時間を必ずとる。

P8
参照

② 思考をつなぐ：考えを比較・検討する時間を設定する

学力調査結果から、説明・比較・構造化を伴う思考に課題が見られる。児童生徒の様々な考えを相互に比較・検討したり、まとめ直したりする過程を授業の流れに取り入れる。

まずは
ここから！



- ・発表後に、比較・検討を促す発問をする。正解は急がない。
- ➡ICTは、共有や他者参照だけでなく、比較・検討のはじめの一步に活用する。
- ・板書には「答え」だけでなく、「違い」や「理由」「思考の過程」を残す。
- ・共通点・相違点・妥当性などの観点を明示し、思考の整理を図る。

P7
参照

③ 学びを深める・活用する：「単元を貫く問い※」をもとに単元を構成する

「単元を貫く問い」をもとに、各時間の学習を関連付け、深め、活用する場面を設定する。

中2 社会「江戸時代」の例

「なぜ江戸幕府は260年
以上も続いたのだろうか」

小5 国語「説明文」の例

「筆者は、どのような工夫
で自分の主張を読み手に伝
えているのだろうか」

※単元を通して繰り返し考え続ける中心的な問い。各時間の学習をつなぎ、単元全体の学びの方向を示す。

まずは
ここから！



- ・単元のはじめに、「単元を貫く問い」を設定する。
- ・毎時間この問いを継続的に意識させ、単元の学習の焦点を一貫させる。
- ・単元の終わりに、再度その問いに立ち返り、学習の成果を振り返らせる。

P5・6
参照

これらを通して「使える」「わかる」授業へ

- ・学習内容が単元を通して体系的に関連付けられる。
- ・児童生徒の思考過程が可視化され、比較・検討を通して理解が深まる。
- ・問題の意図や条件を正確に捉え、児童生徒が思考を始動できるようになる。
- ・ICTが情報共有の手段にとどまらず、思考を深化させる道具として機能する。



前回の実験結果だと説明がつかないぞ…。今日は条件を変えた実験をして、原因を解明したいな。

〇〇さんの考えは僕と似ているけど、根拠にしている資料の見方が少し違うね。



二つの根拠を比べて整理すれば、もっと筋道立った説明ができそうだ！



よし、『条件』は全部チェックしたぞ。文章のこの部分を根拠にすれば、最後までしっかり説明できそうだ！

参考

グッドプラクティス（効果的な指導方法）を日々の授業改善に生かす

戸田市では学力調査の分析からグッドプラクティスを明らかにし、授業改善のポイントとして共有してきた。この蓄積を右のQRコードに再度提示する。上記の他にも単元ベースの授業づくりを支える日々の取組として参考にしてほしい。



まずはどれか一つ
取り入れることから
始めてみましょう。



グッドプラクティス

1時間完結型の授業は、学習内容の断片的な理解にとどまりやすい。単元を通して、「使える」「わかる」まで高める授業づくりに向けて、まずは下記の**単元の逆向き設計**を参考に取り組み、研究協議等で議論を深めてほしい。

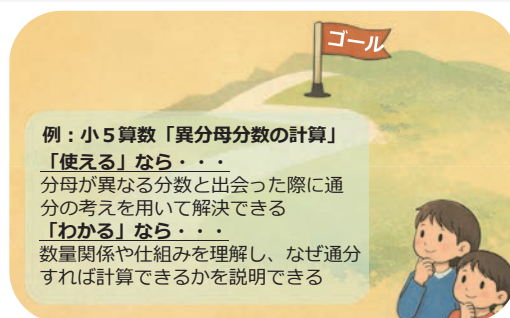


まずは**授業研究会**や**学校訪問の授業**から見直してみましょう。

単元の逆向き設計

ステップ1 単元末（ゴール）の子供の姿を明確にする

- 単元末の子供の姿（「使える」「わかる」）を具体化する。
（**学びの出口**）
※単元の内容によっては「使える」まで高める場合と、「わかる」を到達点とする場合が考えられる。
- 単元前の子供の実態（既習・関心等）を把握する。
（**学びの入口**）
- 単元で働かせたい**教科の見方・考え方**を特定する。



教材研究の段階では、学習指導要領などの原典に当たることに加え、先生自身が「自分ならどう読むか」「この概念の何が美しいのか」等、**教材の価値をつかむ**ことが大切です。

ステップ2 単元を貫く問いを設定する

ステップ1を踏まえて設定する

単元を貫く問い = 単元を通して考え続ける中心的な問い（課題）

単元を貫く問いを大きく分類すると、教科の特質や学習内容に応じて「**概念や原理を追究する**」問いと「**どのように考えるか・表現するか**」という**方略を働かせる**問いがある。

ステップ1の姿を目指す問いを位置づけ、単元末にはこの問いに対する考えを確認したい。

なぜ～なのか？型

社会：なぜ江戸幕府は260年も続いたのか

理科：なぜ物は燃えるのだろうか

→概念理解を目指す問い

どうすれば～できるのか？型

※または「どのように・どのような～だろうか」

国語：どのように主張を読み手に伝えているのだろうか

体育：どうすれば相手の守りを崩して得点できるのか

→方略を見つける問い

留意点

- ・ 問いは教科に応じてどちらかのパターンになる、というものではない。
- ・ 単元を通して発展・変化したり、二重構造になったりすることもある。
例：小5算数「どうすれば分母が異なる分数を計算できるのか（方略）→なぜ分母を揃えると計算できるのか（概念）」



Point 確認したいポイント

- ☑ 単元のゴールと結び付いているか
- ☑ 単元を通して考え、深められる問いか
- ☑ 教科の見方・考え方を引き出す問いか
- ☑ 子供が考えたくなる問いか

【気を付けたい問いの型】

- × 活動を示すにとどまる
例：分数の計算方法を考えよう
- × 本時単位で解決できる
例：通分の仕方はどうすれば行いやすいのか

ステップ3 単元を貫く問いに対する評価と学習活動を設定する

【例】中1外国語・自己紹介（※以下の例は、紙面の都合上、端的に示したもの）

単元を貫く問い

初めて会う相手に、自分や学校生活のことをどのように伝えればよいだろうか。【「使える」段階

問いに対する子供の姿（評価の視点）

他校との交流の場面で、自分のことをよりよく知ってもらうために、内容や順序を工夫した自己紹介をしている。

評価の3観点を設定

※知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、主体的に学習に取り組む態度のそれぞれの評価について内容、方法等を設定する。

単元の学習活動を設定

- ・自己紹介モデルを聞く
- ・教科書の内容を理解し、必要な語彙・表現を習得する
- ・伝える内容を選ぶ（趣味・特技など）
- ・ペアでやり取りする（正確さと流暢さ）
- ・よりよい表現や構成を検討する
- ・発表し、フィードバックを受ける など

単元を貫く問いに対して「何ができればよいか」「どうあればよいか」等、問いに対する子供の考えや表現を「どう見取るか」を明確にし、単元に必要な学習活動を逆算して設定する。

単元づくりのPoint

学びをつなげる場の設定

「使える」「わかる」へ深まりのある単元とするためには、知識や技能、経験などを**つなげて思考を精緻化**させていく必要がある。こうした「**つながり**」を生む場面を単元内に位置付けたい。

既習とつなげる例

社会「自動車工業の学習で、なぜその地域で盛んに生産が行われているのか」を考える際、農業の学習で扱った「土地の条件・人の工夫」と比べて考えさせる学習活動を設定。
→ **共通点や違いに着目させ「条件」という見方を動かせる。**

実生活とつなげる例

算数「割合」の学習後に、チラシ等を提示して「どちらが本当にお得か」を割引率や単価を使って考える場面を設定。
→ **学んだことを活用することで「使える」段階に高める。**

単元づくりのPoint

学習内容の重点化・構造化

単元を貫く問いをもとに必要な知識や技能を考えれば、学習内容に軽重をつけた単元構成が考えられる。右図は、内容アに重点を置き、単元末に活用場面を設定した例である。「使える」まで高める単元構成を工夫したい。

		時間の授業の流れ		
単元の流れ	第1時	導入	内容ア	終末
	第2時	導入	内容ア	終末
	第3時	導入	内容ア・ウ	終末
	第4時	導入	内容ア・オ	終末
	第5時	導入	内容オ・活用	終末
	第6時	導入	内容活用	まとめ

参考

見方・考え方が働く「教科する」深い学びへ

見方・考え方とは、その教科のメガネをかけて物事を見たり、考えたりすることである。見方・考え方が働く「**教科する**」**深い学び**の様相は子供たちの学習活動において「どのような思考をしているか」の「動詞」に現れる。動詞の質を深めるためには、単元構成だけでなく以下のような教師の問いかけや板書（P7参照）などによる思考の関連付けが重要である。

動詞の質の深まりの例

(考えたことをグループで)

伝え合う・説明する・聞く → **比べる・問い直す** など

(教師が共有した画面を)

見る・違いを探す → **分類する・吟味する** など

(Web等で情報を)

探す・集める・まとめる → **資料を疑う・判断する** など

問いかけ例：国語の「読む」の学習

「この表現を変えたら、意味はどう変わりますか？」
→ **言葉の意味・動きに着目させ**、解釈を問い直す見方を動かせるようにする。

問いかけ例：社会の「歴史」の学習

「もし○○側だったらこの出来事をどう考えますか？」
→ 立場を変えて**社会的事象を多面的に捉えられる**ようにし、判断することを促す。

単元を貫く問いを深める協働的な ICT 活用

ICT活用が日常化し、子供たちの考えを即時に共有できるようになった。しかし、共有するだけでは学びは深まらない。「使える」「わかる」段階まで高めるためには、単元を貫く問いに対する多様な考えを比べたり、関連付けたりする協働的な学習活動が重要である。

【単元の流れ】

単元を貫く
問いの確認



問いを追究する段階で考えを
①集める→②比べる→③つなぐ



問いに戻り、
理解を深める

「協働的な学びの充実」に向けた ICT の役割

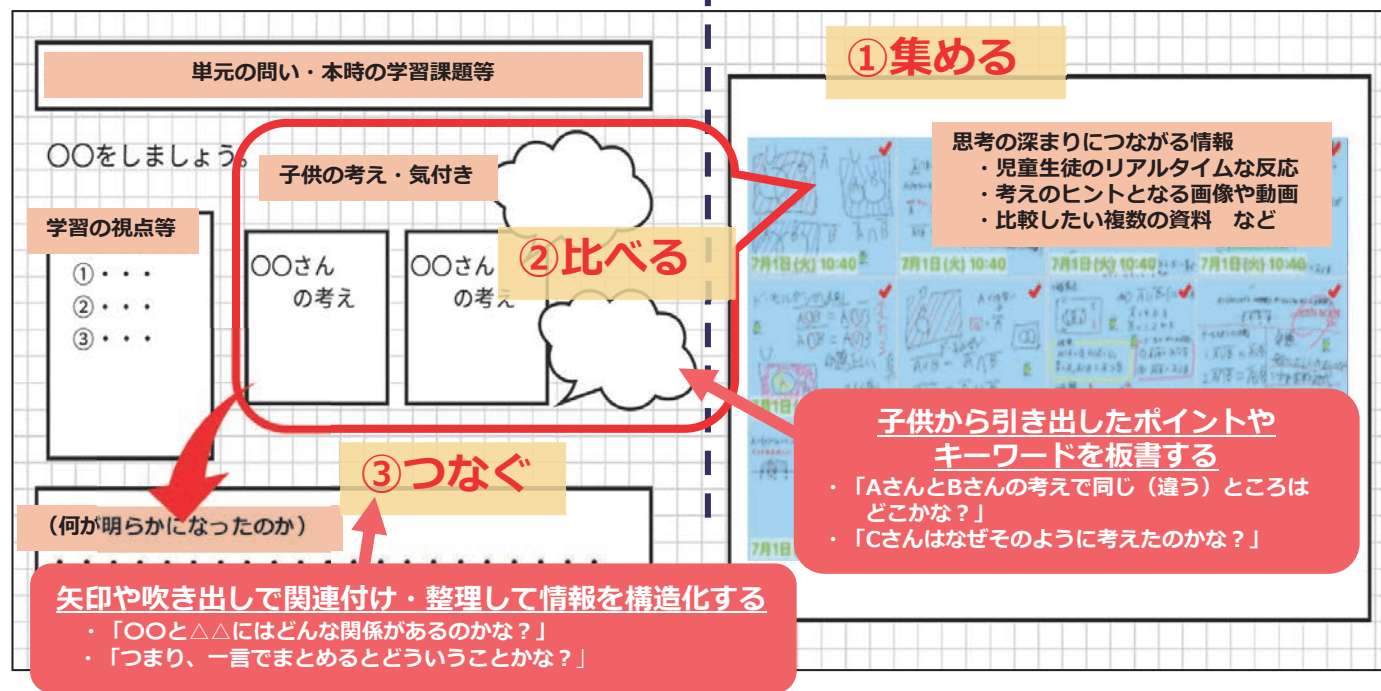
- ①集める 児童生徒の多様な意見、Web上の情報などを即時に集め・共有する
- ②比べる 複数の考えや資料を並べて、を比較・検討したり、分類・整理したりする
- ③つなぐ ばらばらだった情報を結びつけて可視化し、知識や思考を構造化・一般化する

－ホワイトボードの活用を軸に考えると－

思考を深めるためには同じ情報を見ながら考えを交流する「**共同注視**」が重要である。ホワイトボードを中心に多様な考え等を「集め・比べ・つないで」いくことで、単元を貫く問いに迫る理解を深めていく。以下はホワイトボード活用における例である。

板 書 (残す情報+多様な思考を構造化)

投 影 (変化する情報)



参考

「比べる」「つなぐ」におけるICT活用の考え方

「比べる」「つなぐ」においては、例えば、スプレッドシートで意見を一覧化し、並べ替えや色分けで共通点・相違点を可視化したり、シンキングツールで関係性を構造化したりするICT活用が考えられる。

「つなぐ」段階では、単元を貫く問いの解決に向けて教師が教材研究に基づき、関連付け等(=見方・考え方の発揮)を行いながら**考えを練り上げる学習活動を学級全体で行う**ことで深い学びとなる。その際、個別最適な学びとのバランスを考えながらICT活用の在り方を見出していくことが重要である。



R7指導の重点
SAMR・DCの
一体的充実

リーディングスキルをすべての授業で耕す

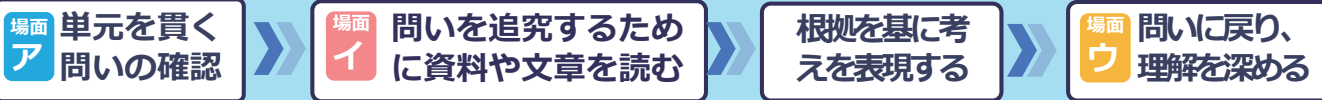
単元を貫く問いを追究するためには、教科書や資料、問題文を正しく読み取り、そこから根拠を見出す力が必要である。このような読解力は単発の指導で身に付くものではなく、単元の学びの中で資料や文章を読みながら繰り返し活用することで育っていく。改めて、以下の視点を意識した取組を行いたい。

【リーディングスキル6つの視点】

- ①係り受け解析：文の構造を正しく認識する。（主語・述語や修飾語・被修飾語など）
- ②照応解決：代名詞が何を指しているかを正しく認識する。（「これ」「それ」「その～」など）
- ③同義文判定：与えられた二文が同義かどうか正しく判定する。
- ④推論：既存の知識と新しく得られた知識から論理的に判断する。
- ⑤イメージ同定：文と非言語情報（図・グラフなど）を正しく対応づける。
- ⑥具体例同定：辞書の定義を用いて、語彙と用法を獲得したり、理数的な定義を理解し、その用法を獲得したりする。

単元の学びを通してリーディングスキルを『耕す』

【単元の流れ】



→単元の流れの中で場面を捉えて6つの視点を意識した重点的な指導を行う

※【 】は主な視点

場面ア 学習課題や問いの題意を正しく捉える場面で ▶言語を整理して問いかける

学習言語・生活言語を意識して考えさせる

【③同義文判定 + ⑥具体例同定】

「この言葉はどんな意味ですか」

共書きをして学習言語を意識させる

【内容に応じて①係り受け解析 ②照応解決 ③同義文判定 ④推論】

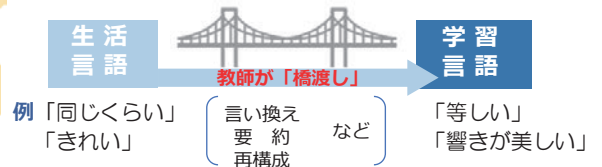
「先生が書くことを伝えるので、同じペースで書きましょう」

指示代名詞が示す言葉を明確にする

【②照応解決】

「『これ（それ）』が指す言葉は何ですか」

子供が日常的に用いる生活言語を、より正確で共有可能な学習言語へ高めるために、教師が「言い換える」「短くまとめる」などの問いかけを通して、言葉を整理・再構成する経験を積み重ねられるようにする。



場面イ 情報を整理・比較する場面で ▶テキスト（文）と図表等を関連付ける

本文と図表・資料の説明の関連を、線や矢印で結び付ける

【⑤イメージ同定 + ④推論】

資料を読み取るポイントを示し、全体でも一緒に確認する

【①係り受け解析 + ⑤イメージ同定】

根拠に基づき考えを発表させる

【④推論】



場面ウ 考えをまとめたり説明したりする場面で ▶言葉を整理してまとめる

語り始めの言葉を換えて説明する

【①係り受け解析 + ③同義文判定】

「『〇〇は』を『■が』に換えて文章をつくりましょう」

二つの文を一文にまとめる

【①係り受け解析 + ③同義文判定】

「この二つの文をまとめて説明しましょう」

キーワードを用いて文章をまとめる

【④推論】

「ここまでの内容を●●という言葉を使って30文字以内にまとめて説明しましょう」

チェック



過去のRS指導の重点



安心して考えや疑問が言える学級を目指して

単元ベースの授業で「使える」「わかる」学びを実現するためには、子供たちが「なぜ?」「どうして?」と考えを出し合える心理的安全性が担保された学級風土がその土台となる。WEBQUを活用し、学級の状態を客観的なデータに基づいて改善(=微調整)を進めたい。

WEBQU活用のサイクル

① 1回目の実施



下記を参考に学級の状態を分析し、改善に向けた手立てを検討する。

② 改善の手立て



①で検討した改善策や支援策を実施する。

③ 2回目の実施



1回目との比較で、学級の変化と手立ての効果を把握する。

④ さらなる改善



③を踏まえて、さらなる改善に向けた手立てや支援を実施する。

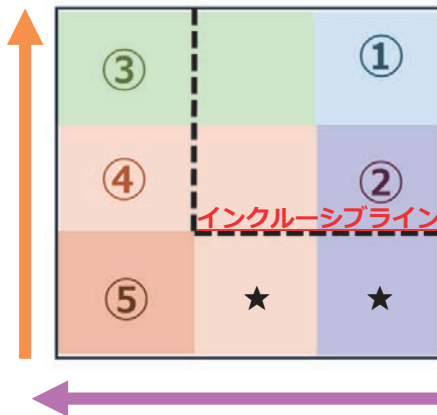
学級分布表の見方

縦軸
承認感

学級で、自分は「認められている、関係性がある」と思うほど上に寄っていく。

横軸
被侵害感

学級で、「嫌なことがある、孤立している」と思うほど左に寄っていく。



①学級生活満足群

承認感があり、トラブルの可能性も低い。

②非承認群

トラブルの可能性は低いが、承認が少ない。

③侵害行為認知群

承認感や関係性はあるが、侵害感が見られる。

④学級生活不満足群

承認が少なく関係性が薄いため、トラブルが生じている可能性が高い。**個別の配慮が必要。**

⑤要支援群

早急に対応が必要。**具体的な個別の対策が必要。**

インクルーシブラインとは

児童生徒が学級生活に満足し、意欲的に活動できる状態にあるかを示す指標。WEBQUでは、学級経営の改善に向けてインクルーシブライン内に入ることを1つの指標としている。

まずは
ここから!



学級分布表から学級の課題を読み取る

学級分布表から、児童生徒一人一人の状態を把握するとともに、学級全体の環境をどのように改善する必要があるかを捉える。その際、分布の傾向を「承認感(リレーション)」と「被侵害感(ルール)」の両面から把握し、両輪として位置付けながら、改善に向けた微調整を進める。

チェック



WEBQU
マニュアル



研修動画
※戸田市教職員
のみ閲覧可

改善の方向性 (承認感が低い場合)

リレーション

安心して交流ができる人間関係づくりを図る手立てを考える。

- ・互いのよさを認め合う活動
- ・安心して意見を言える雰囲気づくり
- ・教師による承認的な声かけ
- ・協働的な学習活動 など

改善の方向性 (被侵害感が強い場合)

ルール

学級での共通のルールやマナーの定着を図る手立てを考える。

- ・学級のルールの確認と共有
- ・望ましい行動の明確化
- ・トラブル時の対応の確認
- ・わかりやすい指示 など

まずは
ここから！



学級の状態を微調整する-「リレーション」と「ルール」を両輪として-

学級の課題に応じて、以下を参考に改善に向けた微調整を行う。まずは、学級全体への支援（第1層支援）として、学級経営リフレクションシートの項目に基づき、教師の関わり方と学級の仕組みを見直したい。

※以下のNo.○は全てリフレクションシートの番号に対応

リレーションを高める 子供同士が安心して関わり、互いを認め合える関係づくり

■ 子供の話に耳を傾け、気持ちを理解しようとしているか (No.1)

取組
例

- ・朝の会や帰りの会で子供の話を聞く時間を設ける
- ・子供の発言を受け止めて教師が言い換える
「○○さんは『こう考えると分かりやすいのではないか』と考えたんだね。」

■ 個々の子供の伸びや変容を具体的に伝えているか (No.19)

取組
例

- ・努力や工夫を具体的に認める
「すごいね。」 → 「最後まであきらめずに考えていてすごいね。」
- ・子供のよさを学級で紹介する場をつくる（帰りの会など）

■ 子供同士が認め合う活動を取り入れているか (No.26)

取組
例

- ・友達のをさを伝える活動、感謝や称賛を伝える活動
- ・協働的な学習活動における「協働」についての振り返り

ルールを高める 学級の秩序を整え、安心して生活できる環境づくり

■ 問題行動に対して人格ではなく行為を指導しているか (No.8)

取組
例

- ・行動の理由を確認する
- ・望ましい行動を具体的に示し、改善できた行動を認める
- ・叱責よりも、肯定的で具体的な声かけを基本とする

■ 指示を具体的にわかりやすく伝えているか (No.22)

取組
例

- ・役割や活動の流れを明示する（板書や掲示物を活用する）
- ・短く具体的に指示する
- ・「今すること」「次にすること」が分かるように示す

■ ルールを子供と共有しているか (No.29)

取組
例

- ・学級会でルールを話し合う（短時間の話し合いを含む）
- ・合意したルールを掲示する
- ・望ましい行動をした子供の姿を全体に共有し、価値づける

大切なことは、これらの取組を単発で済ませず、継続的に行い、改善が見られたかを確認するPDCAサイクルを回すことです。



留意点

学級分布表において⑤（要支援群）に位置する児童生徒については、第2・3層支援として、上記と別に**早期の個別対応**が必要である。

<個別の関わり方を工夫する>

- ・机間指導などで重点的に観察し、困り感や実態を把握する。
- ・小さな努力や工夫を見逃さず、個別に認める声かけを増やす。

<チームで共有し対応する>

- ・担任だけでなく学年や特別支援教育コーディネーターと状況を共有する。
- ・学級全体の支援と合わせて、重点的な声かけや支援を行う。

チェック✓

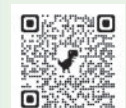


リフレクションシート

チェック✓



多層的な支援の考え方等



シートの活用方法



PBSについて

「ものづくりの視点」を取り入れた PBL の深化

戸田市では、「ものづくり」を伴う探究的な学びの環境整備を進めている。これを基盤として PBL に「ものづくりの視点」を取り入れることで、好奇心や探究心を原動力とし、試行錯誤をしながら「好きを育み、得意を伸ばす」学びを推進していく。

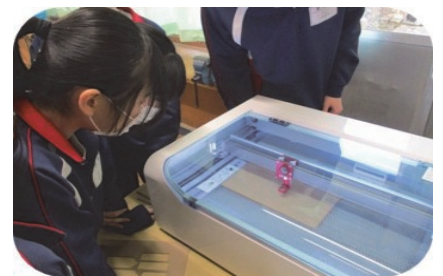
「ものづくりの視点」の必要性

思考と行動、自己と社会を往還する学びへ

- ☑思考や行動・好奇心の芽を育む → 「つくっているうちにもっと挑戦したくなった！」
- ☑よりよい解決に向けた行動を生む → 「もっとよくする方法を授業後に調べてみたいな！」
- ☑課題を自己の生き方と関わらせる → 「“もの”は誰かの困りごとを解決していてすごい！」
- ☑学びが社会につながっている実感を持ちやすい → 「学んだことが役に立って嬉しい！」

「ものづくりの視点」からPBLの質を高める 5つのポイント

PBLの実践において「活動が一度きりで終わる」「誰のため・何のためが不明確なまま進む」「試行錯誤や改善の時間が不足する」など、「つくること」自体が目的化することがある。試行錯誤を通して価値を生み出す過程を単元に位置付けるために、以下5つのポイントを踏まえ、単元構成を見直すことが大切である。



① 対象の困りごとなどを明確にし、その原因を追究する



つくる前に、「誰が、どんな場面で、何に困っているか」などの問題を明確にしよう！

それが無くなるのが、その人にとって本当に理想の状態？ その困りごとの真の原因は？



その人の本当の理想の状態や、困りごとの原因まで考えたら、やることが変わってきたよ！

② (対象の行動を変えたい場合) 言葉で伝える以外の方法を知る



相手の行動を変える方法って、ポスターや呼びかけのように言葉で伝える以外にもある？

“もの”や仕組みの工夫で、自然に行動が変わる方法と、そのよさを調べてみよう！



ナッジ、仕掛け学などの方法を見つけたよ！注意するより、自然に行動を促せそう！

③ 小さな試作から始める



始めから完成を目指さずに、今あるもので、まずアイデアを簡単な形にしてみよう！

簡単な形にしてみたら、どんなことが見えてきたかな？



形にしてみたら、考えがはつきりした！本格的に取り組み前に直したい所も見えたよ！

④ 「使い・確かめ・直す」時間を確保する



何度か実際に使ってみて、うまくいったところと、いかなかったところはどこかな？

それは、②で考えた“その人の理想の状態”に本当に近づいていると言える？



少しずつよくなっていくのが楽しい！理想の状態に近づけるため、もっと直したい！

⑤ 日常の中で使われ続ける形に近づける



誰でもずっと使われ続ける形にするには、どんな工夫や技術が必要そうかな？

量（再現性・量産性）や、質（精度・耐久性・安全性）などの観点は抜けていない？



毎日みんなが使えるものをつくるなら、テクノロジーを使った方がよさそうぞ！

★参考★ PBL における「ものづくり」の好事例については、YouTube で以下のとおり検索

戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会



チェック



過去のPBL指導の重点

ナッジ・仕掛け学の解説